

## 症例基盤型問題解決型学修入門

責任者・コーディネーター	医学教育学講座医学教育学分野 佐藤 洋一 教授		
担当講座・学科(分野)	医学教育学分野、地域医療学分野、腫瘍生物学研究部門		
担当教員	佐藤 洋一 教授、伊藤 智範 教授、前沢 千早 教授、田島 克巳 准教授、相澤 純 助教		
対象学年	1	区分・時間数	講義 6.0 時間
期間	通期		

### ・学習方針（講義概要等）

公開症例集（Paper Patients）をもとにした問題解決型学習(PBL; Problem based learning)をおこなう。一般的な症候（頭痛、胸痛、腹痛、血痰・喀血、吐血・下血、麻痺、意識障害・失神、運動麻痺・筋力低下、ショック、など）を訴える患者に対して、どのようなアプローチで病気の診断と治療を行えば良いか、またそれを論理的に進める際に必要な基礎的知識と技能が何かを、少人数グループ（履修背景をもとにしたメンバー構成）で調べて、プレゼンテーション資料をつくり、発表と討議を行うコースである。

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

### ・教育成果（アウトカム）

症例をベースにした少人数グループ作業による PBL をおこなうことで、常に病者を念頭において、ヒトの体の正常構造と機能、および病態生理を学ぶことができるようになる。また、チームとして作業をする上で必要な、役割分担とコミュニケーション能力が向上する。自己の学修履歴を記録しておく、常に振り返る習慣を身につけることで、自己学修を自律的にこなうことのできる学生になる。

### ・到達目標（SBO）

- ・少人数グループ内で、役割を決めて成果物を作り上げることができる。
- ・チームの和を保ち、良好なコミュニケーションをとることができる。
- ・疾患の理解には、どのような基礎知識が必要となるか、具体例をあげて説明できる。
- ・診断プロセスを述べることができる。
- ・疾患を、病因、症状、鑑別診断、治療、生活指導と社会復帰など多面的な観点から総合的に捉える習慣を身につける。
- ・自己学修の記録をつけることができる。
- ・プレゼンテーションソフトを使って、疾患を系統的に説明できる。

・ 講義日程

(矢) 西 101 1-A 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
7/4	月	4	医学教育学分野 地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門	佐藤 洋一 教授 伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授	ガイダンス・症例呈示（頭痛、胸痛、腹痛、血痰・喀血、吐血・下血、麻痺、意識障害・失神、運動麻痺・筋力低下、ショック、など）
7/4	月	5	医学教育学分野 地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 医学教育学分野	佐藤 洋一 教授 伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 田島 克巳 准教授 相澤 純 助教	PBL（疾患のプレゼンに何が必要か、方針をたてる）(SGL)
9/26	月	3	医学教育学分野 地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 医学教育学分野	佐藤 洋一 教授 伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 田島 克巳 准教授 相澤 純 助教	グループ発表（西 1 A、西 4 B）
9/26	月	4	医学教育学分野 地域医療学分野 腫瘍生物学研究部門 医学教育学分野 医学教育学分野	佐藤 洋一 教授 伊藤 智範 教授 前沢 千早 教授 田島 克巳 准教授 相澤 純 助教	グループ発表（西 1 A、西 4 B） ミニテスト（西 1 A）

・ 教科書・参考書等

岩手医科大学公開症例集、内科学書、Cecil Essentials of Medicine

・ 成績評価方法

- A. 事前自己評価と事後自己評価、及びチーム内の同僚評価をおこなう（2割）  
 B. プレゼンテーションの相互評価をおこなう（1割）  
 C. コースポートフォリオがきちんと書かれているか（2割）  
 D. 医療において基礎医学の重要性を理解しているかどうかを問うペーパー試験をおこなう（5割）  
 を総合して、評価する。

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

教室・実習室に備え付けのプロジェクター、白板、各自の PC